平成29年度第2回仙台市学校給食運営審議会会議録

1　日　　時　　平成29年11月30日（木）
午後3時45分開会
午後4時50分閉会

2　場　　所　　仙台市役所 2階 第5委員会室

3　出 席 委 員　　岩﨑奈緒子委員，川村和久委員，若狭久美子委員，曽根由美子委員，髙橋順子委員，熊谷和裕委員，小岩康子委員，遠藤みち子委員，柏木朋子委員，千葉しのぶ委員，向所千夏委員

4　事務局職員　　木村総務企画部長，清水参事兼健康教育課長，廣瀬健康教育課主幹，金田給食運営係長，結城主査，千葉主査
横山太白学校給食センター所長，瀬川荒巻学校給食センター所長，
中田高砂学校給食センター所長，小野寺野村学校給食センター所長，
白鳥南吉成学校給食センター所長

5　説　明　員　　清水参事兼健康教育課長，金田給食運営係長

6　定足数の確認

議事に先立ち，事務局より，本日の出席者が11名であり，仙台市学校給食運営審議会条例第5条第2項の規定による定足数を満たしているので，本会議は成立している旨報告がなされた。

7　会議録の署名委員の指名

会　長　　仙台市学校給食運営審議会実施要領第6条の規定で，会議録の署名委員は，会長と会長が指名する委員1名となっていることから，今回は曽根委員を指名する。

8　議事　「平成30年度の学校給食費について」

会　長　　では，「平成30年度の学校給食費について」に移る。事務局より説明願いたい。

事務局　　来年度の給食費について，例年教育委員会より当審議会へ諮問を行っている。平成30年度の給食費については，前回の審議会において諮問され，実質的な審議は今回の審議会で審議するということになっていた。資料を用意したので説明させていただく。
（資料6頁～12頁に基づき説明）

会　長　　ただいま事務局から説明があった。これから協議をしていくわけだが，委員の皆様からご意見ご質問をいただく前に，事務局から来年度の給食費についての考えを伺いたいと思うが，そのことについてはいかがか。

委　員　　（異議なし）

事務局　　給与栄養量は，100%に達していないものもあるが，使用食材の工夫により，概ね昨年度と同水準が保たれている。また，給食費のうち，副食にまわせる額は，前回改定の平成25年度に比べ徐々に少なくなってきているが，昨年度との大きな変化は見られない。一部の食材価格については引き続き上昇傾向が見られるものの，昨年に比べ上昇率は緩やかになっており，望ましい献立や使用食品の調達への影響を考慮しても，現段階で，平成30年度に直ちに給食費の改定を要するとまでは言えないのではないかと考えている。一方で，本市の給食費の額は県内では低い水準，政令指定都市でも平均より低い額となっている。また，平成31年10月に予定されている消費税率の改定や，天候不順など予見が難しい様々な要因により，食品の価格が上昇する可能性は否めない

状況である。ただ，給食費の額は，保護者負担に直結するものであり，家計に与える影響も大きいことから，設定額については慎重に検討する必要があるとともに，仮に改定となれば，一定の周知期間も必要と考えている。平成30年度については，現行の給食費単価で実施が可能と考えられるものの，食品価格の変動や給与栄養量を注意深く見極めながら，近い将来の改定も踏まえて，引き続き調査・検討し，本審議会への情報提供を行ってまいりたい。

会　長　委員の皆様からご意見ご質問をいただきたいが，皆様いかがか。まず，学校現場からはどうか。

委　員　中学校から。本校は単独調理校であり，290 円で毎食献立を立て作っているところだ。事務局の説明にあったが，栄養価は取れているという結果が出ているが，正直なところ厳しい状況が続いている。最近，豚肉や魚の提供が難しい。先日，さんまを提供したが，3 センチほどの大きさであった。このところ鮭の提供が難しく，別の白身の魚に変えるなど工夫をすることで栄養価の方は何とか摂取が出来ている。また，これから冬で，みかんがデザートに出てくる季節だが，先日出したみかんも本当に小さなものであった。あるときは半分に切って出すとか，柿も数回，一口だけとか，出しているだけでもいいのかと思うが，現場としてはそのような傾向が今年はかなり強く出ていた。給与栄養量及び充足率の資料を見ると，食物繊維の値が低いようだ。緑色野菜の中で，ほうれん草など，高価でなかなか学校給食では提供できない。小松菜など他の野菜を代替で考えながら，安価で買える野菜ということで，給食室で工夫してやっている。本校の栄養教諭からは，もう少しでも給食費を上げて欲しいという現場の声がある。中学生は特に成長期であるため幅広い食材を使って給食を出してあげたいということだ。では 290 円では絶対にやっていけないのかというと，290 円だからといえば，それに合わせた献立を一生懸命考えて，あるときは若干少なめ，あるときは 290 円よりかかった献立ということで工夫しながらやっているが，現場の状況としては，可能であれば値上げをしていただければ，単独調理校では特に，食材調達に当たって助かると思う。

委　員　小学校から。本校は給食センター対象校であり，食材調達の苦労感についての話は難しい。資料を見ると，栄養価やそれに伴う児童の発育状況については大きな変化はないと思う。主婦の立場で買い物に行くと，バター等値上がりを感じる。食材価格の資料を見ると，食材によって値上がり具体にさまざま差異があると感じた。学校で食べる立場でいうと，家庭で子供たちがなかなか口にすることができない料理を工夫して出していただいていることをありがたいと感じている。価格の面であるが，本校については 1 食 245 円で，保護者の年間負担額を見てみると，学年によって回数が違うが，大まかに言って年間で 4 万 2 千円から 4 万 3 千円程度の負担となっている。現場と保護者の負担を考えたときに，今後値上がりが考えられるとは思うが，次年度に当たってということでいえば，現行通り 245 円の据え置きでいかがかと思う。

委　員　本校は中学校で給食センター対象校である。弁当を作ることや外食することを考えると，この金額でこれだけバランスのとれた食事を毎回出してもらえることは本当にありがたい。金額も大事だが，質を落とさずに出すということを優先的に考えた方がよいと思う。アンケートによれば，子供たちが朝食をとらずに登校する割合は，全国平均で，学年によって違うが，1 割から 1.5 割といわれているので，10 人に 1 人か 2 人は朝食を食べずに午前中を過ごすということだ。また，10 人に 1 人が貧困と言われているので，帰宅した後にどのような食事をしているか見えにくい。給食は年々大事になっているため，質を維持する必要がある。その点では来年度大丈夫ということなので現行のままでよいのではと思う。

委　員　本校は単独調理校であるため，小学生の子供から給食が美味しくないという話は出ないが，中学生の子供は，給食センターから運ばれてくるので冷えてあまり美味しくないと言っている。それでも中学生は発育の段階なので残さず全部食べているということだ。小学校では食育の日を設けていて，弁当の日が 2 か月に 1 回まわってくる。年度末にインフルエンザ等で学級閉鎖のクラスが出るため調整日を分散させているということだ。親としては大変だが 2 か月に 1 回程度なので，そのような日があってもよいと思う。また，自分が好きなものではなく，食べられないものを食べるということが給食の良さと感じている。子供たちが生活の中で一番落ち着くのは食事を

した後かと思う。親として充実した食べ物が与えられたらというのが本音である。給食費については平成31年度に単独調理校の給食会計も公会計となるそうだが，保護者の立場としては消費税率改定のタイミングで値上げした方が納得を得られやすいのではないかと思う。小学校からの給食便りを見ると，栄養をとても考慮して給食を作っていただいていると感じるので，質も良くなってきたら子供たちの心も豊かになるのではないかと思う。

会　長　安全な食材の確保という観点からいかがか。

委　員　赤ん坊は母乳でお腹一杯になることで満足する。給食の中の満足というのは重要。空腹では満足できない。給食だけでということはないが，一つでも満足して育つということが将来大人になる準備としては非常に重要な要素であり，そのためにある程度の金額が必要ではないか。単独調理校でやりくりが厳しいときに食材を変えて対応するという話が出たが，児童生徒の嗜好に合わない食材を使うことによって逆に残食率が増えるといった別の問題を引き起こすのではないか。安全安心な食材についてだが，一般的には費用が上がれば安全性が買えるという点も踏まえて給食費を考えていく必要がある。また，保護者が給食に対してどのような意識を持っているのか。給食と同じものを外で食べたら価格は2倍でも足りないのではないか。全体的な要素を考えながら今後の給食費を検討していくべきではないかと思う。

委　員　先ほど，来年度は値上げしなくてもよいが，消費税率改定のタイミングで給食費を改定すれば保護者の納得も得られるのではないかいう意見が出たが，大いにそう思う。政令市の給食費の比較資料で，小学校は真ん中ぐらいで，中学校は低めとなっている。本市と名古屋市，北九州市，福岡市と比べてみると，本市は小学校と中学校の金額の差が一番小さい。給食費は低いが，その中でも中学校は高めということ。値上げのタイミングでは，中学校も小学校より少し高めだが満足のいく内容となるよう値上げが出来ればと思う。

委　員　値上げしなくても大丈夫なのかという不安がある。気候の変化が大きいため，食材が準備できないこともある。例えば魚はすり身にしてはどうか。中学校は成長期であるため栄養が大切。好き嫌いはあるが，食べているうちに慣れてくる。子供たちも納得するのではないか。残食率は前回少なくなってきているというデータがあるが，今回はどうか。

委　員　前回，保護者としては豊かな食事のためには値上げも必要ではないかという話をした。今回，一食当たり費用の資料を見たが，保護者も自分の子供が食べる分をもう少し負担すべきと感じた。普段，保護者は給食費を払っていることすら意識していない。自分がどれだけ子供にお金をかけているか，意識していない。ＰＴＡとしても保護者の意識の持ち方に対してもっとアピールすべきと感じた。自分としては子供の食べるものにもう少しお金をかけてもよいと思っている。働いている親にとっては三食のうちの一食が豊かであるのは助かる。タイミングは難しいが，必要なものであれば保護者も出すべきと思うので，値上げを考えてもよいのではないかと思う。ただ，どれくらいの値上げ幅が適切なのか目安が分からない。

会　長　その点について事務局では考えを持っているか。

事務局　仮に値上げする場合，どの程度の額が適正かということの試算はしているが，まだ見えていない。平成25年度の改定時は，小学校20円，中学校22円の値上げを行った。今後予定されている消費税率改定については，食材は軽減税率適用と言われているが，物流等の周辺部分は軽減されないので，どの程度の影響があるかは読み切れていない。少なくとも直近改定の20円前後が一つの目安となるのではないかと考えている。

委　員　子供が通っている中学校は給食センター方式だが，小学校は単独調理校だった。単独調理校では間近で調理していることを子供が感じられること，栄養士が食育を行ってくれることがよかった。また，給食センターの給食はあまり美味しくないという話が出たが，衛生的で安心して任せられる状況で給食を作っていただいているのでありがたい。給食費については，保護者の理解を得て適正な価格にしていただきたい。残食について，本校は他の学校に比べ同じ献立なのに残食が多い。いかに少なくしていくか。残食が多いメニューについても慣れないものを食べる機会と捉えて，次は出さないのではなく続けていきながら，学びの中で無駄にしないように繋げていけ

ればと思う。保護者についても昼の食事は大切であるということを意識付けていければと思う。

委　員　一食当たり費用の資料を見て，保護者としてもこういったことを知らずに当たり前のように子供が給食をいただいていたという状態なので，費用について保護者がよく知っていないということは大きいと感じている。本校は単独調理校であるが，栄養士が苦労していろいろ考えて給食を作っていることを試食会で伝えている。また，残食については，給食委員会で残食をどう減らしていったらよいかを子供たち自身で考えている。先ほど，消費税をきっかけに値上げするのが保護者としては受け入れやすいのではないかという話があったが，近年，非常に天候が不順であることから，そういった面からも考える必要があるのではないか。今年不作だったから次の年値上げしようというのではなく，見越して値上げを考えていかなければならないかと思う。安心安全ということを考えていけば，天候の不順といったことも含めて議論していかなければならないと思う。

会　長　来年度の給食費については据置きの答申を出すにしても，その次については考えていかなくてはならないのではないか，というのが委員の皆さまのまとめではないかと思うがいかがか。

それでは，平成30年度の学校給食費については据え置きと答申するということでよろしいか。

委　員　（異議なし）

会　長　では，平成30年度の学校給食費については据え置きと答申する。答申書の内容については，ただいま委員の皆様からいただいたご意見も踏まえつつ，私と事務局に一任ということでよろしいか。

委　員　（異議なし）

9　その他

事務局　今後について，今回の審議の内容を踏まえ，会長と調整し，答申書をまとめる。

答申書については，12月に開催される定例教育委員会に，平成30年度の学校給食費についてとして議案を提出する。この定例教育委員会において，本審議会の答申通りの決定がなされれば，正式に平成30年度学校給食費が決定する流れとなる。

今後の審議会開催時期は未定であるが，適宜情報提供等をしながら，委員のご意見を伺う場合もあるかと考えている。

（全国学校給食週間に合せ実施する「学校給食フェア」について案内）

以　上

平成30年1月5日

署名委員　仙台市学校給食運営審議会会長

熊谷和

仙台市学校給食運営審議会委員

曽根由美子